

	頁
目次	
口絵	
序	
凡例	
細目次	
第一章 地租改正と官民有区分	1
第一節 地租改正	1
一 地租改正事業の沿革	1
二 県の地租改正方針	28
三 実施過程	43
四 改租苦情問題	54
第二節 官民有区分	65
一 三河国における官民有区分	65
二 尾張国における定納山問題	79
第二章 明治前中期の農業・農政	89
第一節 明治前期の農業と勸農政策	89
一 明治前期の農業事情	89
二 農事通信と勸業委員・勸業会	104
三 農談会と種子交換会	119
第二節 農事改良委員会と老農たち	138
一 農事改良委員会	138
二 小柳津勝五郎と焼土肥料	142
三 大垣津音蔵と太田金十郎	156
第三節 私立農会・県農会・系統農会	159
一 私立農会	159
二 三河農会	176
三 県農会の設立	185
四 系統農会の整備	204
第四節 明治中期の農業事情	209
一 牛馬耕	209
二 米麦作	217
三 養蚕・養鶏	238
四 共進会・品評会	260
五 水利	265
六 地主小作関係と農家経営	272
第三章 日露戦争期から第一次世界大戦期の農業	275
第一節 日露戦中・戦後の農政	275
一 日露戦時下の農業	275

二 農会・産業組合の組織化	285
三 耕地整理事業の進展	298
第二節 米穀改良と地主	306
一 共同苗代の強制	306
二 米麦品種の状況と多収獲奨励	312
三 米穀検査事業	318
四 地主小作問題の状況	330
五 小作者保護奨励事業	334
第三節 商業的農業の展開	349
一 条桑育の普及	349
二 桑園の改良	353
三 優良蚕種の普及	356
四 養蚕組合の発達	366
五 養鶏・蔬菜	371
第四章 第一次世界大戦後の農業	377
第一節 第一次世界大戦後の農村の状況	377
一 農業労働者の状態	377
二 大正十年小作慣行調査	388
三 地主団体の動向	393
四 小作問題の状況	399
第二節 第一次世界大戦後の農政	411
一 群産業是の作成	411
二 県農村調査会と農事実行組合の組織	424
三 農会による農業経営改善事業	432
四 自作農創設	442
第三節 優良品種の普及と米穀の共同販売・検査	448
一 優良品種の普及	448
二 農産物検査事業と米穀共同販売	453
第四節 養蚕業の発達	461
一 養蚕組合の組織	461
二 養蚕奨励方針	472
三 繭取引改善と不況対策	486
第五節 産業組合と商業的農業の発達	495
一 産業組合の組織とその改革	495
二 養鶏業の発達	506
三 蔬菜・果樹生産の発達	518
四 農産物の共同出荷統制	530
第五章 昭和恐慌と経済更生運動	533
第一節 昭和恐慌の影響とその対策	533

一 恐慌の影響	533
二 恐慌対策	547
第二節 経済更生運動の展開	560
一 経済更生運動の始動	560
二 経済更生計画の樹立	564
三 産業組合の拡充と負債整理組合	582
第三節 経済更生計画の実態	594
一 経済更生計画事業の経過と実績	594
二 負債整理の実情	616
第六章 戦時期農業政策	625
第一節 戦時農業統制と農業諸団体	625
一 戦時農業統制の進展と農業報国聯盟	625
二 産業組合の拡充	639
三 農事実行組合の強化	649
四 農会と生産統制	655
五 農業諸団体の統合と農業会の設立	676
第二節 食糧・肥料統制	685
一 米穀・重要農産物管理と供出	685
二 食糧増産	699
三 肥料の増産と配給	712
第三節 農村労働力対策	725
一 労働力不足とその対策	725
二 労働賃金統制	742
第四節 農地政策と小作料統制	746
一 自作農創設維持政策と農地管理	746
二 小作料統制	769
第五節 「皇国農村」の建設	772
一 標準農村の設定	772
二 戦争末期の農村状況—村常会・農業会—	781
第七章 林業	789
第一節 国有林と地元利用	789
第二節 民有林の管理と施業	797
第三節 公有林野の整理・統一	816
第四節 林産物の生産と流通	828
第五節 林業団体	843
第六節 戦時統制下の林業	863
第八章 水産業	871
第一節 漁業	871
一 明治前期の漁業	871

二 打瀬網漁の広がり	892
三 機船底曳網漁（打瀬網漁）の動向	920
四 養蚕・淡水漁業	930
五 優良漁業組合	943
六 戦時下の漁業	950
第二節 塩業	954
一 専売制以前の塩業	954
二 専売制の施行と名古屋専売支局吉田出張所	960
解説	983
あとがき	
資料提供者及び協力者	
愛知県史編さん関係者名簿	